

教団新報

第43回
日本基督教団総会
2024年10月29日(火)~
31日(木)



キリストの体なる教会の形成



教団三役・総幹事

【教職常議員】	
武田真治(関東)	198票
藤掛順一(神奈川)	195票
服部修(東中国)	193票
岡村恒(西東京)	192票
大友英樹(東京)	191票
東野尚志(東京)	189票
宮本義弘(東海)	187票
◎加藤幹夫(中部)	184票
◎岸憲秀(東京)	184票
田中かおる(関東)	180票
篠浦千史(四国)	179票
久世そらち(北海)	175票
◎小堀康彦(中部)	174票
菅原力(大阪)	174票

*得票順、(◎印は新議員、無印は前総会期から再選)

【信徒常議員】	
河田直子(東中国)	201票
豊川昭夫(関東)	199票
高橋嘉男(東北)	197票
宮本修(大阪)	191票
◎本城勇介(神奈川)	190票
守安久美子(東京)	188票
◎土屋芳子(東海)	187票
◎高花富夫(東京)	186票
◎村瀬明子(中部)	186票
中鳴暁彦(西東京)	185票
◎境和彦(東京)	183票
佐久間文雄(関東)	177票
稻松義人(東海)	170票

2票
投票総数366、無効
藤盛勇紀 198票
久世そらち 151票
(投票総数366、無効)



開会礼拝

(新報編集部)

お知らせ
「教団新報」次号を、12月14日に5026増刊号として発行します。
総幹事 綱中彰子

諸報告がなされた後、は、予備選挙を行わず本選挙を行うとの修正動議が所信表明を行った上で順次、教団三役、常議員選挙が行われた。投票で選挙することが提案された。これに対し予案された。この議案を上程する」との動議が出され、364名中166名の賛成で否決、原案を200名の賛成で可決した。

議長報告に対する協議では、機構改定について、教憲教規に再検討を可能とする規定がないこと再検討をした場合、

原案を賛成多数で可決した。議長選挙では、1回目の投票で雲然俊美議長が再選された。

雲然俊美 2005票
久世そらち 145票
(投票総数364票、無効3票)

雲然議長は、「神の御心と信じ受け止め、地方教会、小規模教会には大きな喜びがあるということを伝えながら仕えて行きたい。機構改定、出版局の課題を優先して取り組みたい。各地の教会、伝道所、学校、団体、施設、それぞれの働きに仕え、互いに仕え合うキリストの体なる教会となることを願う」と挨拶した。

副議長選挙では、1回目の投票で藤盛勇紀副議長が再選された。

藤盛勇紀 198票
(投票総数366、無効)

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩んできましたが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題に取り組んでいたところを説明した。沖縄教区との関係に対する取り組みが問われ、雲然議長は、「教区にも人格のようないものがあり、子細に報告できないこともあります」と告げ、理解を求められ、云然議長は、危機感は共有したが理解は深められなかつた。

総幹事が、2008年に発表された、教団50年デー

タに基づく予測通りに

教勢が低下しているこ

とを指摘し、「経費削減

による削減を進める」と述

べた。協議では、全ての

教師に、ハラスマントに

関する講習をすることを

じて行なう」と述べた。

総幹事報告で、網中総幹事が、2008年に発

じて行なう」と述べた。

期、議長を支えて、取り組んで行きたい」と述べた。

書記選挙については、

議長・副議長の合議によ

り、黒田若雄書記が推薦され、議場は承認した。

黒田書記は、「少子高齢化、人口減少が激しい高知県で牧師をしてい

る。地方教区の思いが教団の中に伝わることも意味がある」と思って行

きたい。2年前の高知教

会長老会の『私たちも覚悟を決めましょう』との言葉が心にある。教会の祈りに支えられて2年間励みたい」と述べた。

常議員選挙では、予備投票を行はず、全数連記投票で選出することができる。この議案と投票され、今井牧夫議員が35名の賛同者と共に提案した。

教団の歴史の中で制限選挙が信仰の秩序の混乱や放漫な財政を招いた、割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

今井議員が提案理由の中では、教団総会が二つに割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩ん

で來たが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題に取り組んでいたところを説明した。沖縄教区との関係に対する取り組みが問われ、雲然議長は、「教区にも人格のようないものがあり、子細に報告できないこともあります」と告げ、理解を求められ、云然議長は、危機感は共有したが理解は深められなかつた。

総幹事が、2008年に発

じて行なう」と述べた。

期、議長を支えて、取り組んで行きたい」と述べた。

書記選挙については、

議長・副議長の合議によ

り、黒田若雄書記が推薦され、議場は承認した。

黒田書記は、「少子高齢化、人口減少が激しい高知県で牧師をしてい

る。地方教区の思いが教団の中に伝わることも意味がある」と思って行

きたい。2年前の高知教

会長老会の『私たちも覚悟を決めましょう』との言葉が心にある。教会の祈りに支えられて2年間励みたい」と述べた。

常議員選挙では、予備投票を行はず、全数連記投票で選出することができる。この議案と投票され、今井牧夫議員が35名の賛同者と共に提案した。

教団の歴史の中で制限選挙が信仰の秩序の混乱や放漫な財政を招いた、割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

今井議員が提案理由の中では、教団総会が二つに割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩ん

で來たが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題に取り組んでいたところを説明した。沖縄教区との関係に対する取り組みが問われ、雲然議長は、「教区にも人格のようないものがあり、子細に報告できないこともあります」と告げ、理解を求められ、云然議長は、危機感は共有したが理解は深められなかつた。

総幹事が、2008年に発

じて行なう」と述べた。

期、議長を支えて、取り組んで行きたい」と述べた。

書記選挙については、

議長・副議長の合議によ

り、黒田若雄書記が推薦され、議場は承認した。

黒田書記は、「少子高齢化、人口減少が激しい高知県で牧師をしてい

る。地方教区の思いが教団の中に伝わることも意味がある」と思って行

きたい。2年前の高知教

会長老会の『私たちも覚悟を決めましょう』との言葉が心にある。教会の祈りに支えられて2年間励みたい」と述べた。

常議員選挙では、予備投票を行はず、全数連記投票で選出することができる。この議案と投票され、今井牧夫議員が35名の賛同者と共に提案した。

教団の歴史の中で制限選挙が信仰の秩序の混乱や放漫な財政を招いた、割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

今井議員が提案理由の中では、教団総会が二つに割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩ん

で來たが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題に取り組んでいたところを説明した。沖縄教区との関係に対する取り組みが問われ、雲然議長は、「教区にも人格のようないものがあり、子細に報告できないこともあります」と告げ、理解を求められ、云然議長は、危機感は共有したが理解は深められなかつた。

総幹事が、2008年に発

じて行なう」と述べた。

期、議長を支えて、取り組んで行きたい」と述べた。

書記選挙については、

議長・副議長の合議によ

り、黒田若雄書記が推薦され、議場は承認した。

黒田書記は、「少子高齢化、人口減少が激しい高知県で牧師をしてい

る。地方教区の思いが教団の中に伝わることも意味がある」と思って行

きたい。2年前の高知教

会長老会の『私たちも覚悟を決めましょう』との言葉が心にある。教会の祈りに支えられて2年間励みたい」と述べた。

常議員選挙では、予備投票を行はず、全数連記投票で選出することができる。この議案と投票され、今井牧夫議員が35名の賛同者と共に提案した。

教団の歴史の中で制限選挙が信仰の秩序の混乱や放漫な財政を招いた、割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

今井議員が提案理由の中では、教団総会が二つに割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩ん

で來たが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題に取り組んでいたところを説明した。沖縄教区との関係に対する取り組みが問われ、雲然議長は、「教区にも人格のようないものがあり、子細に報告できないこともあります」と告げ、理解を求められ、云然議長は、危機感は共有したが理解は深められなかつた。

総幹事が、2008年に発

じて行なう」と述べた。

期、議長を支えて、取り組んで行きたい」と述べた。

書記選挙については、

議長・副議長の合議によ

り、黒田若雄書記が推薦され、議場は承認した。

黒田書記は、「少子高齢化、人口減少が激しい高知県で牧師をしてい

る。地方教区の思いが教団の中に伝わることも意味がある」と思って行

きたい。2年前の高知教

会長老会の『私たちも覚悟を決めましょう』との言葉が心にある。教会の祈りに支えられて2年間励みたい」と述べた。

常議員選挙では、予備投票を行はず、全数連記投票で選出することができる。この議案と投票され、今井牧夫議員が35名の賛同者と共に提案した。

教団の歴史の中で制限選挙が信仰の秩序の混乱や放漫な財政を招いた、割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

今井議員が提案理由の中では、教団総会が二つに割れ、互いに相手の意見に耳を傾けない状況があり、主イエスを中心とする教会の交わりとなつてないことを指摘、「お互いに対する敵意が満ちていることこそが教団問題」と述べた。

藤盛副議長は、「一期だけ」と囁きながら歩ん

で來たが、教団の課題に取り組んだところであつたが、教団の課題

礼拝

罪の赦しと復活の命を土台に

開会礼拝、逝去者記念礼拝、聖餐礼拝

開会礼拝では、加藤幹夫牧師（阿漕教会）がコリントの信徒への手紙12章27節～13章3節から、「愛という賜物を受ける共同体」と題して説教した。

冒頭、災害、戦争が起り、教会では教勢の低下や高齢化が進んでいるとし、「私たちは崩壊期を歩んでいる。苦難の中で、人間の力で乗り越えようとする時、神が与えてくださった愛を失つて行く」と告げた。

また、総会の主題にある「キリストの体なる教会」とは、十字架による罪の赦しと復活による永遠の命を土台とする信仰告白共同体であり、私たちは「キリストにつながり一つになつて

いる」ことを告げ、コリント教会が派閥に分断され福音の喜びを失っている中、パウロは、十

字架による赦しと復活の命に生きる教会であつてほしいといつた。また、13章から「愛の讃歌」

が記されていることに触れ、「この愛は、キリストが与えてくれた賜物としての愛」であるとし、教会が、崩壊期にあっても希望を失わないのは、土台となるキリストの愛は決して滅びないからであると語った。

二日目の朝に行われた逝去者

記念礼拝では、杉岡ひとみ牧師（千歳栄光教会）がマルコによる福音書4章1～9節から「いのちの種」と題して説教した。

先ず、「種を蒔く人のたとえ」において、イエスの言葉を聞く

聞き方が問われており、私たち

は、イエスの言葉を聞き良い実

を実らせる者となりたいと願う

が、私たちの歩みは上手く行か

ないこともあることを告げた。

その上で、子どもが記した神

さまへの手紙の中に、6歳の子

どもが、「道に落ちた種は鳥が

食べだし、石地の種は虫が食べ

たと思うから種は無駄にならな

い」と記していたことを紹介、

「どのように種が蒔かれ、実を

結ぶかは皆違う。私たちの状況

が良くても悪くとも、御言葉の

種には豊かな命の可能性があ

ることを明確にしつつ、

選挙で、常議員選挙につ

いては全数連記で行うこと

を承認した。

第43回教団総会に関し

て、準備委員会の報告を

伝道資金小委員会の報

承認した後、兵庫教区か

は田邊由紀夫委員長が、

信仰職制委員会報告で

とを承認した。

2025年度教団歳入

歳出原予算の審議では、

「負担金」は減免を行わ

ず、対前年度347万円

増額、また、多くの支出

項目を前年度予算と同額

としつつ、「年金局繰出

金」、「他団体分担金」を

減額する予算案を承認。

「按手礼執行の指針」を出すべく議論をしてきた

が、指針の取り扱いにつ

りになつていることを受

け、次総会期に規則の見直しの検討をすることを要望した。

2024年能登半島地震被災教会会堂等再建支援委員会報告では、岡村援委員会報告では、岡村援書記が、再建支援に関するルールを整えるためと記載している。云々

恒書記は、質問に応えつつ、議長は質問に応えつつ、

総会は成立案件を満たす

ことを明確にしつつ、

柔軟性を持って取り組む

ことを目指している」と述べた。

総会は活動を終え、今後は人道支援のバックアップ

を行う「能登災害ボランティア窓口」として継続

すること等を報告した。

吉岡光人出版局理事長

は、「833万円の返済が終わっている」、「内訳は、賞与、月々の支払2名の退職金1500万円」と説明した。

第42回総会期
常議員会
第13回

出版局運転資金3千万円の借入を承認

道推進室の設置を終了し、担つておる取り組み、および会計は、伝道委員会が引き継ぐことを可決。また、第43回総会期も「日本伝道の推進を祈る日」の取り組みを継続することを可決した。

「教規から導き出され

る『日本基督教団の教師論』を承認し、「日本基督教団の教師論」と合わ

せて公にすることを承認

した。公にするための準

備、活用の仕方の検討は、

次総会期常議員会に申し

送ることとなつた。

吉岡光人出版局理事長

は、「日本基督教団の教師論

と合わせて公にすることを承認

した。公にするための準

備、活用の仕方の検討は、

次総会期常議員会に申し

送ることとなつた。

ウクライナ、ガザ、台湾地震、募金延長決定

9月26日、日本基督教団松本教会にて開催された。

大塚委員による開会式
挙げた後、常議員会報告、
業務報告が大三島義孝幹



松本教会礼拝堂で

事よりなされた。常議員会の下、会堂支援に特化した2024年能登半島地震被災教団会堂等再建支援委員会の設置が決まりました。また、2021年2022年東北地震被災教団会堂牧師館等再建委員会の活動を42総会期をもって終了することが決定した。

能登半島地震緊急救援募金は、8千万円強がさきげられている。

能登半島地震救援対策委員会報告が柳谷知之委員長よりなされ、ボランティアが不足していることが報告された。

主な協議事項は、42総会期を終えるに当たり、以下の申し送り事項を確認した。

(1)「日本キリスト教社会事業同盟」との関係を保ち、教団との関係がより密になっていくことを望む。(2)「社会活動基本方針」を重んじつ、現代の社会情勢に鑑みた新たな展望を持つていただきたい。(3)基地問題・死刑制度・放射能問題・日

本国憲法改悪の問題など、「命」や「平和」に関する課題を継続協議していただきたい。(4)「その他救援資金」運用に用いてもらいたい。(5)全般の下、会堂支援に特化した2024年度社会福祉施設援助金案内を各教区に送付すること。ウクライナ、ガザ、台湾地震救援募金をそれぞれ2025年3月末まで延長することを決定した。

2024年度社会福祉施設援助金案内を各教区に送付すること。ウクライナ、ガザ、台湾地震救援募金をそれぞれ2025年3月末まで延長することを決定した。

▼在日韓国朝鮮人連帯特設委員会▲

國社会委員長会議を開催していただきたい。「全国社会委員長会議」の開催時期の検討、オンラインも含めて開催回数についても検討していただきたい。その際に、参加者名前を載せることと並び各教区との緊密な連携をもって今後予想される複合災害に対応していく

柳谷委員長の祈りをもって閉会した。

(大塚啓子報)

（たがきたい。災害掲示板）

やB C Pなどについても

共有できると良い。

（原 和人報）

10年が経ち、制度の課題と向き合う

▼伝道資金小委員会▲

10月4日に教団会議室

にて第4回伝道資金小委員会（以下、小委員会）が開催された。今

総会期の最後の委員会

は2025年年度の伝道資金申請書を精査し、

要望・確認事項を共有す

ることがその大きな目的であつた。

委員構成は、総会副議長、常議員1名、宣教委員長1名、伝道委員長1名と常議員会で選ばれた

名と常議員会で選ばれた

員長による開会式を行った。

大塚委員による開会式を行った。

（鈴木秀信報）

3名の教区議長で構成される。

伝道資金とは、教団全体会では把握していく各個

教会の伝道活動及び小規

模教会援助、そして教区

の伝道方策に充てるため

の二段構えの資金制度で

あり、各教区に一定の計

算方式によって割り当てられる仕組みである。た

だし、これを配慮や事情

によって申請しない教区

もあり、また、この仕組みと目的自体に異を唱え、申請しない教区もあ

る。

伝道資金とは、教団全体会では把握していく各個

教会の伝道活動及び小規

模教会援助、そして教区

の伝道方策に充てるため

の二段構えの資金制度で

あり、各教区に一定の計

算方式によって割り当て

られる仕組みである。た

だし、これを配慮や事情

によって申請しない教区

もあり、また、この仕組みと目的自体に異を唱え、申請しない教区もあ

る。

伝道資金とは、教団全体会では把握していく各個

教会の伝道活動及び小規

模教会援助、そして教区

の伝道方策に充てるため

の二段構えの資金制度で

あり、各教区に一定の計

算方式によって割り当て

られる仕組みである。た

だし、これを配慮や事情

によって申請しない教区

もあり、また、この仕組みと目的自体に異を唱え、申請しない教区もあ

る。

伝道資金とは、教団全体会では把握していく各個

教会の伝道活動及び小規

模教会援助、そして教区

の伝道方策に充てるため

の二段構えの資金制度で

あり、各教区に一定の計

算方式によって割り当て

られる仕組みである。た

だし、これを配慮や事情

によって申請しない教区

もあり、また、この仕組みと目的自体に異を唱え、申請しない教区もあ

る。

伝道資金とは、教団全体会では把握していく各個

教会の伝道活動及び小規

模教会援助、そして教区の伝道方策に充てるための二段構えの資金制度であり、各教区に一定の計算方式によって割り当てる

られる仕組みである。た

だし、これを配慮や事情

によって申請しない教区

もあり、また、この仕組みと目的自体に異を唱え、申請しない教区もあ

る。

「運動の輪を広げよう」をテーマに

◆「隠退教師を支える運動」全教区推進協議会◆

10月1日、オンライン会議で第4回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が開催された。

今回は、はじめに金性

済氏（前日本キリスト教

協議会総幹事）より「バ

ベルの塔、神の寄留者、

そして共に生きる教会、改悪入管体制に抗う歓待と友愛の天幕」と題する講演があった。入管問題

と隠退教師を支える運動

において対面23名、ズーム7名の参加、テーマを

おいて対面23名、ズーム7名の参加、テーマを

会議で第4回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が開催された。

今回は、はじめに金性

済氏（前日本キリスト教

協議会総幹事）より「バ

ベルの塔、神の寄留者、

改悪入管体制に抗う歓待と友愛の天幕」と題する講演があった。入管問題

と隠退教師を支える運動

において対面23名、ズーム7名の参加、テーマを

おいて対面23名、ズーム7名の参加、テーマを

次期委員会への申し送り事項を確認

▼在日韓国朝鮮人連帯特設委員会▲

た。

（原 和人報）

（たがきたい。災害掲示板）

やB C Pなどについても

共有できると良い。

（原 和人報）

（鈴木秀信報）

ベルリン宣教会創立200周年を祝う 20カ国から47名が参加



左から、東アジア担当者フス
テット牧師、秋葉牧師、筆者

9月13～14日、「ベルリン宣教会創立200周年 (200 Years Berlin Mission)」を祝う会議が、ドイツ・ベルリン市の宣教会本部を会場に、「義の実は、平和をもたらす人たちによって平和のうちに薄かれる」(ヤコブ3・18) の聖句を掲げて開催された。

協力関係にある教会からは、アフリカ、全欧洲、パレスチナ、インドと東北アジア、北中米の20カ国から47名が参加し、私は日本基督教団を代表した。これに加えてドイツの関連教区から9名の代表者が、ベルリン宣教会およびゴスナ宣教会から14名の牧師たちが、そして9カ国から13名のボランティアが会議を支えた。

ベルリン教区監督のU・トラウトヴァイン牧師によるキーノートスピーチでは、社会が二極化する中で教会は立場の異なる人々を「橋渡し」する役割を担うこと、移民たちが平和の証人である限り彼らの異なる信仰を尊重すること、また世俗化と過疎化が進行する環境にあって、教会共同体の新しいあり方を通して社会正義を模索することなどが語られた。シンポジウムでは米国、南アフリカ、聖地とヨルダン、ポーランド、韓国の代表者たちが、キリスト教宣教と脱植民地化の課題について多角的に論じた。参加型のワークショップでは「地域」別と「主題」別のものが開かれた。後者について、私は「多様性と差別」に参加した。会議と展示を通して、西欧式のキリスト教宣教が各地で多様な様相を示し、それゆえ「脱植民地化」の課題もまた複雑であることを再認識した。

宿泊先はポンヘッファー・ホテルであった。1989年11月、ベルリンの壁が落ちた後、旧東独の共産党政権と民主化勢力が、教会指導者の司会のもと、最初の民主的選挙を行うための「円卓」会議を開いた場所である。会議前夜にはC・シュテープライン監督主催の晩餐会に招かれ、会議後の主日には、秋葉=クレーマー睦子牧師が働くベルリン日本語教会を訪ねて説教奉仕を行った。

(廣石 望報)



東梅田教会にて

2024年度カルト問題全国連絡会が、10月3～4日にかけて、東梅田教会を会場に開催され、挨拶ののち、講演I「統護士と川井康雄弁護士による講演があった。旧統一協会の行動がなぜ問題なのかについて、弁護士として成し得ることでのべき務めについて、実例を取り上げながら丁寧に講演がなされた。

講演後の質疑応答も活発なものとなつた。特に旧統一協会に対する宗教法人解散命令請求がなされている現状と展望についての質問があり、この答されることで、理解を深める機会となつた。

講演Iに続く講演II「あなたのマインドコントロール」は、村田敏教師(周防教会)が担当した。カルト対策に全く経験のなかで、村田氏がカルト宗教信者に接しているなかで、カルト当事者のマインドコントロールを解くというよりは、実は援助者である自分自身のなかにあるマインドコントロールに気付かれて、そこそこにこそ、カルト対策の肝があるというこ

とを、自身の体験を交えながら講演した。今回、大阪で全国連絡

一協会被害の実態について信頼選択の自由の侵害」と題し、勝俣彰仁弁護士と川井康雄弁護士による講演があった。旧統一協会の行動がなぜ問題なのかについて、弁護士として成し得ることでのべき務めについて、実例を取り上げながら丁寧に講演がなされた。

講演後の質疑応答も活発なものとなつた。特に旧統一協会に対する宗教法人解散命令請求がなされている現状と展望についての質問があり、この答されることで、理解を深める機会となつた。

講演Iに続く講演II「あなたのマインドコントロール」は、村田敏教師(周防教会)が担当した。カルト対策に全く経験のなかで、村田氏がカルト宗教信者に接しているなかで、カルト当事者のマインドコントロールを解くというよりは、実は援助者である自分自身のなかにあるマインドコントロールに気付かれて、そこそこにこそ、カルト対策の肝があるというこ

とを、自身の体験を交えながら講演した。今回、大阪で全国連絡

▼カルト問題全国連絡会▲

旧統一協会被害の実態について学ぶ

会が開催されたのは、特に西日本でカルト問題に携わる人、これからカルト対策に携わろうとしている人たちが、カルト対策に対するより深い理解と交流を得ることを願つてのことであった。実際に西日本地域からの参加者が多くあり、カルト対策における連携と協力体制を図る機会となつた。

▼「障がい」を考える小委員会▲

「力ナンの園」の各事業所を見学

場、羊の飼育、羊毛加工製品の製造をしている「小さき群れの里」、羊毛をフェルトにした製品を作成・販売している「アドナイ・エレ」を見学し、

委員会を開催。様々な施設・学校・職場を分散させ、地域と深い繋がりをもつて、信頼選択の自由の侵害」と題し、勝俣彰仁弁護士と川井康雄弁護士による講演があった。旧統一協会の行動がなぜ問題なのかについて、弁護士として成し得ることでのべき務めについて、実例を取り上げながら丁寧に講演がなされた。

講演後の質疑応答も活発なものとなつた。特に旧統一協会に対する宗教法人解散命令請求がなされている現状と展望についての質問があり、この答ることで、理解を深める機会となつた。

講演Iに続く講演II「あなたのマインドコントロール」は、村田敏教師(周防教会)が担当した。カルト対策に全く経験のなかで、村田氏がカルト宗教信者に接しているなかで、カルト当事者のマインドコントロールを解くというよりは、実は援助者である自分自身のなかにあるマインドコントロールに気付かれて、そこそこにこそ、カルト対策の肝があるというこ

とを、自身の体験を交えながら講演した。今回、大阪で全国連絡

委員会を開催。様々な施設・学校・職場を分散させ、地域と深い繋がりをもつて、信頼選択の自由の侵害」と題し、勝俣彰仁弁護士と川井康雄弁護士による講演があった。旧統一協会の行動がなぜ問題なのかについて、弁護士として成し得ることでのべき務めについて、実例を取り上げながら丁寧に講演がなされた。

講演後の質疑応答も活発なものとなつた。特に旧統一協会に対する宗教法人解散命令請求がなされている現状と展望についての質問があり、この答ることで、理解を深める機会となつた。

講演Iに続く講演II「あなたのマインドコントロール」は、村田敏教師(周防教会)が担当した。カルト対策に全く経験のなかで、村田氏がカルト宗教信者に接しているなかで、カルト当事者のマインドコントロールを解くというよりは、実は援助者である自分自身のなかにあるマインドコントロールに気付かれて、そこそこにこそ、カルト対策の肝があるというこ

とを、自身の体験を交えながら講演した。今回、大阪で全国連絡

委員会を開催。様々な施設・学校・職場を分散させ、地域と深い繋がりをもつて、信頼選択の自由の侵害」と題し、勝俣彰仁弁護士と川井康雄弁護士による講演があった。旧統一協会の行動がなぜ問題なのかについて、弁護士として成し得ることでのべき務めについて、実例を取り上げながら丁寧に講演がなされた。

講演Iに続く講演II「あなたのマインドコントロール」は、村田敏教師(周防教会)が担当した。カルト対策に全く経験のなかで、村田氏がカルト宗教信者に接しているなかで、カルト当事者のマインドコントロールを解くというよりは、実は援助者である自分自身のなかにあるマインドコントロールに気付かれて、そこそこにこそ、カルト対策の肝があるというこ

とを、自身の体験を交えながら講演した。今回、大阪で全国連絡

委員会を開催。様々な施設・学校・職場を分散させ、地域と深い繋がりをもつて、信頼選



新井教会会堂で

人が主に励まされて新井教会に集うことができています。

2023年度、特に新井教会であつた大きな出来事として、は、現住陪餐会員だった姉妹が12月24日の降誕記念礼拝終了後、病院付属の施設にて天に召されていかれたことです。外部式場で姉妹の前夜式、葬儀、告別式を執行し、御許に行かれました。姉妹の平安と残されたご遺族や近しい方々の上に主の慰めがあることを祈ることができます。

現在は礼拝を毎週日曜日の午後14時30分より執行し、御言葉による養いと祈り、賛美をもつて神に獻げることができています。新井教会の現在の礼拝は現住陪餐会員2名と客員1名が共にささげている礼拝です。礼拝出席者の平均は、男性1名女性2名となっており、2024年度の歩みを始めることができましたことを主に感謝しています。2024年4月17日には12月24日に召された姉妹の納骨式、5月12日には2024年度定期教会総会を開催、年間題題を「祈りの生活をしつつ賛美と感謝の礼拝を守る教会」とし皆で話し合って決めることができました。主日礼拝を神への賛美と感謝が溢れる教会として、宗教法人日本基督教団新井教会は、地区諸教会のためにも祈り主にささげると同時に一人一人を合わせてゆく生活で在りたいが教師も含めて隣人や教団・教区・地区諸教会のためにも祈りと願いからこのよくな年間標題となりました。年数回、高田教会との合同礼拝を予定すると共に、これからも礼拝が毎週日曜日の午後に、様々な方の祈りと支えによつて、執行されていくことを主に感謝して伝道報告とします。



あつたこと、更には、否認を続けていた石川一雄さんが、弁護士がほぼ会でできない状況で、「白いをしないと家族が困窮する」と思い込むようにされた中で自白に至ったこと等を語った。また第三次再審請求について、更に再審請求については、更に複数の証拠にこじつけられた疑いがあり、特に裁判官による決まりこと、再審請求への扉を開くためには、「事実調べの実施が重要であることを語った。

大学生の頃、選挙でいわゆるウケイス嬢をしたことがある。幼稚園の友人の父親が区議選に出た。文房具店を営む候補の家に幼小时代よく遊びに行き、おしゃべりなので私はキャー子と呼ばれた。選対本部から地域の課題や候補が伝えたい内容が資料として渡される。自己宣伝は苦手だが他者のことを伝えるのは楽しかった。次は衆議院選挙。渋谷のスクランブル交差点近くで選挙カーの上で運動員として手を振っていた。候補の到着が遅れている。応援弁士が交代し

喜びの救いを伝える

誰もがアーメンと共に言う誓
遍性を持つ祈り。救い主に出
会ってほしいとの願いもその一
つ。教会が様々な人に囲うての
一時の逃れの場所に留まらず、
洗礼を受けて主が永遠に共にい
ることでどこへ行こうと失われ
ない安心を与えられる恵みがあ
る。聖霊の導きにより救われる
道、イエスさまを伝えるとき。
そうに見えるはず。
マイクがあろうとなからう
と。

伝道の MOSHIBIともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

伝道推進室より応援した教会・伝道所

賛美と感謝が溢れる教会

高田教会牧師、新井教会牧師(代務者) 横内 純

主と共に歩んで
くることができ
た幸いを中心より神
に感謝します。新
井教会の創立記念
日である1908年
以前に新井の地
で伝道がされてい
ます。1893年
に旧日本メソジス
ト教会長野教会の
橋本睦之先生によ
る上越の出張伝
道が為された際に

人が主に励まされて新井教会に集うことができています。

2023年度、特に新井教会であった大きな出来事としては、現住陪餐会員だった姉妹が12月24日の降誕記念礼拝終了後、病院付属の施設にて天に召されていかれたことです。外郭式場で姉妹の前夜式、葬儀、告別式を執行し、御許に行かれた姉妹の平安と残されたご遺族や近しい方々の上に主の慰めがあることを祈ることができます。

狹山事件要請行動

再審への道が開かれることを 求めて

あつたこと、更には、否認を続けていた石川一雄さんが、弁護士がほは亞会できない状況で、「白をしないと家族が困窮する」と思い込むようにされた中で自己に至つたこと等を語った。また第三次再審請求で出て来た証拠に関わる資料に偽造、変造が見られることが等を説明した。更に

与えられ 与える



東中通教會員